

JR四国グループ 中期経営計画2030の達成に向けた取組み

【2026年度第1四半期 報告書】

2026年8月21日

四国旅客鉄道株式会社

目次

本報告書は2026年3月に国土交通大臣より受領した指導文書に基づき、四半期毎に実施される国土交通省との検証結果を報告するものです。

1. 収支の状況

- (1) 2026年度第1四半期 連結決算
- (2) 2026年度第1四半期 単体決算

2. 主要施策KPIの達成状況

- (1) 主要施策KPIについて
- (2) 検証項目一覧
- (3) 2026年度第1四半期の検証結果（総括）
- (4) 2026年度第1四半期の実績等

1. 収支の状況

(1) 2026年度第1四半期 連結決算/前年度比較/グループ全体の状況

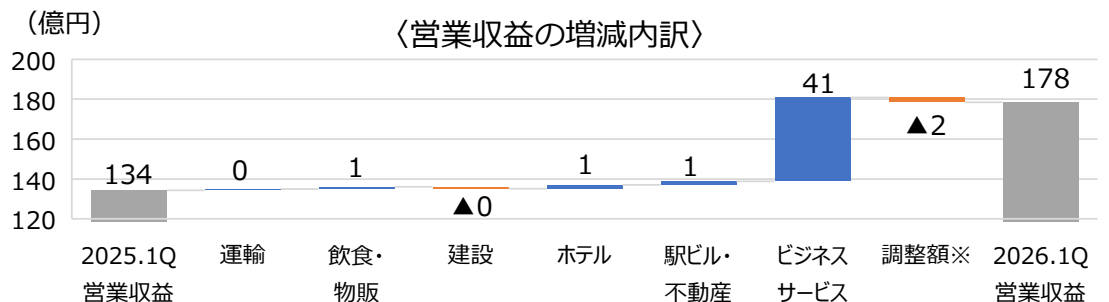
○決算の概況

あなぶきアリーナ香川でのイベント開催などに伴う旅行需要の増加に加え、M&Aにより新たにグループ入りした3社を連結子会社化したことにより、「運輸」「飲食・物販」「ホテル」「駅ビル・不動産」「ビジネスサービス」セグメントで営業収益が増加しました。また鉄道・運輸機構への貸付に伴う受取利息の増加などから、経常利益・四半期純利益は連結・単体ともに黒字となりました。

○連結損益計算書

	(単位：億円)			
第1四半期累計	2025年度	2026年度	増減	比率(%)
営業収益	134	178	44	132.9
営業費	158	205	46	129.6
営業利益	▲ 24	▲ 26	▲ 2	—
営業外損益	54	45	▲ 8	84.3
経常利益	30	19	▲ 11	63.0
特別損益	—	0	0	—
四半期純利益	18	19	0	102.3
親会社株主純利益	18	19	0	102.1

(注)2025年度の親会社の営業費は人件費、動力費の単価などを実績に置き換えております。



(※セグメント間の取引消去額)

●営業収益は、あなぶきアリーナ香川でのイベント開催などによる旅行需要の増加を背景に「運輸」「飲食・物販」「ホテル」の各セグメントで増加しました。また、賃貸用不動産取得に伴う賃料収入の増加により「駅ビル・不動産」セグメントも増収となりました。さらにM&Aにより3社を連結子会社化したことなどから、グループ全体では前年度から44億円の増収となりました。

●営業費は、増収に伴う売上原価の増加に加え、3600系ハイブリッド式ローカル車両や多度津工場近代化に伴う設備の取得による減価償却費の増加などにより46億円増加しました。

以上の結果、営業利益は前年度より2億円悪化し、26億円の赤字となりました。

●営業外損益は、鉄道・運輸機構への貸付の進捗に伴い受取利息が増加した一方、有価証券売却益や特別債券利息の減少などにより、8億円減少しました。

以上の結果、経常利益は前年度より11億円減少し、19億円となりました。

●法人税等を加味した親会社株主純利益は38百万円増加し、19億円となりました。

【営業収益】6期連続増収 【営業利益】2期連続減益 【経常利益】6期連続黒字・3期ぶり減益 【親会社株主純利益】6期連続黒字・3期連続増益

(注) 基礎建設コンサルタント(株)、四国医療器(株)、(株)津島工業の3社を2025年度期末決算から連結子会社化しております。

1. 収支の状況

(1) 2026年度第1四半期 連結決算/前年度比較/セグメント別の状況

○セグメント情報

(単位：億円)				
第1四半期累計	2025年度	2026年度	増減	比率(%)
営業収益				
運輸	73	74	0	100.9
飲食・物販	16	17	1	106.6
建設	29	28	▲ 0	96.8
ホテル	20	22	1	109.5
駅ビル・不動産	14	16	1	112.6
ビジネスサービス	19	61	41	310.6
営業利益				
運輸	▲ 31	▲ 37	▲ 5	—
飲食・物販	0	0	0	142.8
建設	3	1	▲ 1	59.8
ホテル	3	3	0	107.8
駅ビル・不動産	0	1	1	290.6
ビジネスサービス	0	1	1	—

(注) セグメント別の数値には外部顧客との取引のほか、他セグメント間の取引も含んでいるため連結決算における増減内訳とは一致していません。

●運輸

あなぶきアリーナ香川でのイベント開催などにより、鉄道運輸収入が増加した一方で、修繕費や減価償却費などが増加したため、増収減益となりました。

●飲食・物販

あなぶきアリーナ香川でのイベント開催などに伴い店舗販売収入が増加したため、増収増益となりました。

●建設

前年度におけるグループ外からの受注の反動減により、2社を連結子会社化したものの、減収減益となりました。

●ホテル

インバウンド需要やあなぶきアリーナ香川でのイベント開催などにより宿泊収入が増加したため、増収増益となりました。

●駅ビル・不動産

分譲マンション販売は減少したものの、賃貸用不動産の取得に伴い賃料収入が増加したため、増収増益となりました。

●ビジネスサービス

2025年度期末決算から四国医療器(株)を連結子会社化したことに加え、JRからの受託業務が増加したことにより、増収増益となりました。

(注) 基礎建設コンサルタント(株)、四国医療器(株)、(株)津島工業の3社を2025年度期末決算から連結子会社化しております。

1. 収支の状況

(2) 2026年度第1四半期 単体決算/前年度比較/当社全体の状況

○単体損益計算書

(単位：億円)

第1四半期累計	2025年度	2026年度	増減	比率(%)
営業収益	74	76	1	102.0
鉄道運輸収入	58	59	0	101.3
その他収入	16	16	0	104.5
営業費	106	112	6	105.7
人件費	37	37	▲ 0	98.6
動力費	5	6	0	104.8
業務費	23	24	1	106.5
修繕費	15	18	2	118.9
諸税	2	3	0	108.9
減価償却費	20	22	1	108.0
営業利益	▲ 31	▲ 35	▲ 4	—
営業外損益	62	59	▲ 2	95.4
一般営業外損益	12	33	20	268.1
基金運用益	43	25	▲ 17	59.6
特別債券利息	6	0	▲ 6	9.8
経常利益	31	23	▲ 7	76.1
特別損益	—	0	0	—
税引前四半期純利益	31	23	▲ 7	76.1
四半期純利益	21	23	2	111.1

(注)2025年度の人件費、動力費は単価などを実績に置き換えております。

●営業収益について、あなぶきアリーナ香川でのイベント開催などにより、鉄道運輸収入は76百万円増加しました。また分譲マンション販売は減少したものの、賃貸用不動産の取得に伴う賃料収入が増加したことなどから、その他収入も73百万円の増加となりました。

●営業費は、旧松山駅撤去に伴う修繕費の増加や、3600系ハイブリッド式ローカル車両や多度津工場近代化に伴う設備の取得によって減価償却費が増加したことなどから、6億円の増加となりました。

以上の結果、営業利益は前年度より4億円悪化し、35億円の赤字となりました。

●営業外損益は、鉄道・運輸機構への貸付進捗に伴い受取利息が増加した一方、有価証券売却益や特別債券利息が減少したことなどにより、2億円の減少となりました。

以上の結果、経常利益は前年度より7億円減少し、23億円となりました。

●法人税等を加味した四半期純利益は2億円増加の23億円の黒字となりました。

【営業収益】6期連続増収（鉄道運輸収入：6期連続増収） 【営業利益】2期連続減益
 【経常利益】6期連続黒字・3期ぶり減益 【四半期純利益】6期連続黒字・3期連続増益

1. 収支の状況

(2) 2026年度第1四半期 単体決算/前年度比較/事業別の状況

○事業別

(単位：億円)				
第1四半期累計	2025年度	2026年度	増減	比率(%)
鉄道事業				
営業収益	66	66	0	101.1
営業利益	▲ 32	▲ 37	▲ 5	—
関連事業				
営業収益	8	9	0	109.1
営業利益	1	1	0	157.0

●鉄道事業

あなぶきアリーナ香川でのイベント開催などにより鉄道運輸収入が増加し、営業収益は69百万円の増加となりました。

営業費は、旧松山駅撤去に伴う修繕費の増加に加え、3600系ハイブリッド式ローカル車両や多度津工場近代化に伴う設備の取得によって減価償却費が増加したことなどから、5億円増加しました。

以上の結果、営業利益は5億円の悪化となりました。

●関連事業

分譲マンション販売は減少したものの、賃貸用不動産の取得に伴う賃料収入が増加したことなどから、営業収益は79百万円の増加となりました。

営業費は、分譲マンションの売上原価が減少した一方で、賃貸用不動産の取得に伴い減価償却費が増加したことなどから18百万円の増加となりました。

以上の結果、営業利益は61百万円の増加となりました。

2. 主要施策KPIの達成状況

(1) 主要施策KPIについて

中期経営計画2030の施策のうち、今年度の主要施策に対するKPI及びKGIを設定し、本検証の対象としました。

<KPI（Key Performance Indicator）とは、最終的な目標（KGI：Key Goal Indicator）を達成するための過程を計測する中間指標です>

(2) 検証項目一覧

	KPI項目
鉄道事業	① 鉄道運輸収入の確保（総額） ② 鉄道運輸収入の確保（定期） ③ 鉄道運輸収入の確保（定期外） ④ 観光列車を活用した特別企画の実施、情報発信による流動拡大
非鉄道事業	⑤ (株)JR四国ホテルズの売上高 ⑥ 高松オルネのテナント売上高 ⑦ 四国キヨスク(株)の売上高
全事業	⑧ 連結売上高の確保 ⑨ 連結償却前経常利益（通年KGIのみ）

2. 主要施策KPIの達成状況

(3) 2026年度第1四半期の検証結果（総括）

- 検証項目8項目のうち、7項目でKPIを達成、1項目で不達成となりました。
- 鉄道事業については、「四国をつなぐ“かぜ”キャンペーン」や「阪神・四国WEBきっぷ」の発売、WESTERポイントキャンペーン、GW期間における指定席拡大、徳島駅への自動改札機設置および3600系ハイブリッド式ローカル車両の導入などにより、鉄道の利用促進、利便性向上に取り組みました。また、非鉄道事業については、あなぶきアリーナ香川でのイベント開催に伴う需要の取り込みに加え、ホテルにおけるインバウンド需要や高松エリアでの高単価販売、高松オルネ等におけるイベント需要への対応、販売促進施策等により、収益の確保・拡大に努めました。これらの結果、観光列車では台風・大雨による運休影響等によりKPI未達となったものの、鉄道運輸収入やJR四国ホテルズの売上高、高松オルネのテナント売上高、四国キヨスクの売上高など、多くの項目でKPIを達成しました。
- 引き続き、各種施策の取組みを積極的に行い、KGI達成を目指します。

(3) 2026年度第1四半期の検証結果（総括）

項目		K P I		実績	達成状況
鉄道事業	① 鉄道運輸収入の確保（総額）	1 Q	57.2億円	59.3億円	103.7% ○
		2 Q	61.2億円		
		3 Q	62.5億円		
		4 Q	57.7億円		
		K G I	238.7億円		
	② 鉄道運輸収入の確保（定期）	1 Q	12.2億円	12.6億円	102.6% ○
		2 Q	12.3億円		
		3 Q	12.0億円		
		4 Q	10.9億円		
		K G I	47.5億円		
	③ 鉄道運輸収入の確保（定期外）	1 Q	44.9億円	46.7億円	104.1% ○
		2 Q	48.9億円		
		3 Q	50.5億円		
		4 Q	46.7億円		
		K G I	191.1億円		
	④ 観光列車を活用した特別企画の実施、 情報発信による流動拡大 ＜鉄道運輸収入(観光列車)＞	1 Q	58百万円	57百万円	98.1% ×
		2 Q	55百万円		
		3 Q	70百万円		
		4 Q	53百万円		
		K G I	236百万円		

(3) 2026年度第1四半期の検証結果（総括）

項目		K P I		実績	達成状況
非 鉄 道 事 業	⑤ (株)JR四国ホテルズの売上高	1 Q	21.1億円	22.5億円	106.6% ○
		2 Q	23.9億円		
		3 Q	25.9億円		
		4 Q	21.3億円		
		K G I	92.5億円		
	⑥ 高松オルネのテナント売上高	1 Q	14.9億円	16.4億円	110.0% ○
		2 Q	15.6億円		
		3 Q	15.3億円		
		4 Q	14.4億円		
		K G I	60.4億円		
	⑦ 四国キヨスク(株)の売上高	1 Q	14.0億円	15.2億円	108.6% ○
		2 Q	15.6億円		
		3 Q	15.2億円		
		4 Q	14.4億円		
		K G I	59.3億円		
全 体	⑧ 連結売上高の確保 ＜累計＞	1 Q	171億円	178億円	104.1% ○
		2 Q	355億円		
		3 Q	547億円		
		4 Q	767億円		
		K G I	767億円		
	⑨ 連結償却前経常利益	K G I	87億円	-	-

(4) 2026年度第1四半期の実績等

①②③ 鉄道運輸収入の確保

KPI (1Q)				KGI (2026年度)			
		実績	達成状況			実績	達成状況
鉄道運輸収入	① 総額	57.2億円	59.3億円 103.7% ○	鉄道運輸収入	① 総額	238.7億円	
	② 定期	12.2億円	12.6億円 102.6% ○		② 定期	47.5億円	
	③ 定期外	44.9億円	46.7億円 104.1% ○		③ 定期外	191.1億円	

◆検証結果

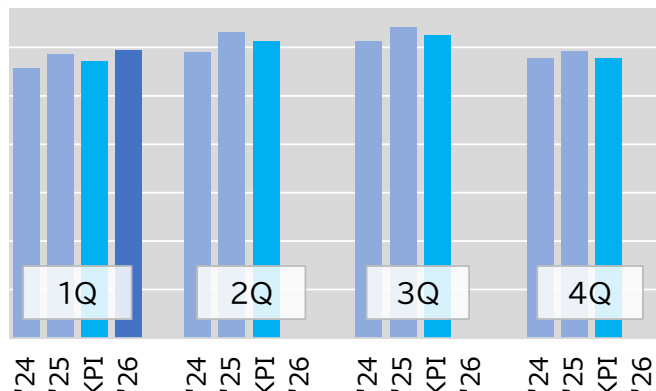
- ・ 四国をつなぐ“かぜ”キャンペーンを展開し、スタンプラリーの実施による鉄道利用の促進を図りま(億円)した。
- ・ スマートフォンやPCからお客さま自身で予約・購入が可能な「阪神・四国WEBきっぷ」を発売し、 60本州・四国間の利用促進に努めました。
- ・ JR西日本と共同でWESTERポイントプレゼントキャンペーンを実施し、e5489の利用拡大を図りまし 50た。
- ・ GW期間に指定席を拡大し、より多くの着座機会提供による快適な鉄道旅行を推進しました。
- ・ 徳島駅に自動改札機を設置するとともに、徳島地区へ3600系ハイブリッド式ローカル車両を導入し 40快適な鉄道をPRしました。
- ・ あなびきアリーナ香川でのイベント開催に伴う鉄道需要を取り込みました。

訪日外国人向けパス（ALL SHIKOKU Rail Pass）の販売枚数は、3,285枚（対前年81.2%）となりました。

◆今後の取組み

- ・ 第2四半期以降についても引き続き各種施策を展開し、鉄道運輸収入の確保及びさらなる上積みを図ります。

鉄道運輸収入（総額）の推移



④ 観光列車を活用した特別企画の実施、情報発信による流動拡大

KPI (1Q)				KGI (2026年度)			
		実績	達成状況			実績	達成状況
鉄道運輸収入(観光列車)		58百万円	57百万円 98.1% ×	鉄道運輸収入(観光列車)		236百万円	

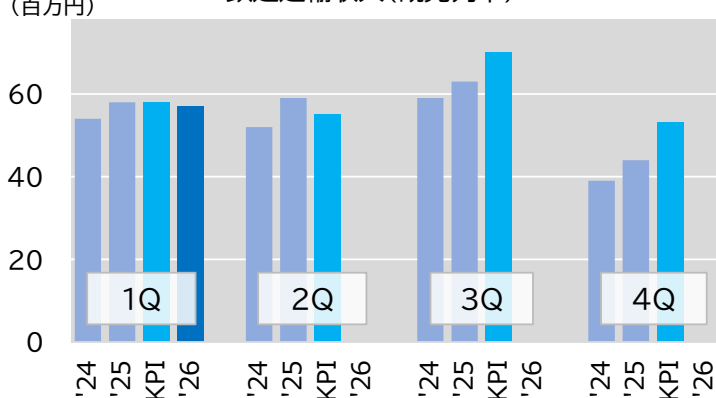
◆検証結果

- ・ 各列車で桜の特別運転など季節に合わせたイベントを実施しました。特に伊予灘ものがたりでは、乗車人員通算25万人達成と2代目で10万人達成を合わせたキャンペーンとして限定食事の販売などを実施し集客を行いました。
- ・ 夜明けのものがたりでは目標の乗車率には届かなかったものの、ごめん・なはり線での運転を土曜日にも設定したことで、全体の乗車率は昨年度より10.9ポイント増加し、乗車率の大幅な改善に繋がりました。
- ・ 6月の台風・大雨により伊予灘ものがたりで1日(4便)、千年ものがたりで2日(4便)、夜明けのものがたりで3日(6便)、藍よしのがわトロッコで1日(2便)が運休となりました。
- ・ 上記の取組みにより集客に努めましたが、台風・大雨による運休の影響が大きく、KPIには届きませんでした。

◆今後の取組み

- ・ 引き続き、各列車で季節に合ったイベントや、周年行事を計画・実施することで集客に努めます。
- ・ 利便性の向上を目的として、伊予灘ものがたり・千年ものがたりの「e5489」との連携を進め、販売方法の拡大を目指します。

鉄道運輸収入(観光列車)



(4) 2026年度第1四半期の実績等

⑤ (株)JR四国ホテルズの売上高

KPI (1Q)	実績	達成状況
売上高	21.1億円	22.5億円 106.6% ○

◆検証結果

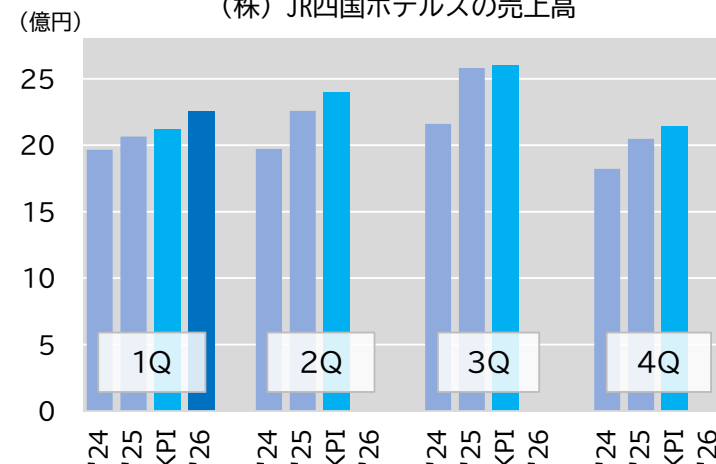
- 中国からの訪日外国人客は前年より減少しているものの、インバウンド全体の需要は高水準で推移したほか、海外の現地セールスによる受注もありました。
- 上記インバウンドの状況に加え、高松エリアではあなぶきアリーナ香川でのイベントの際の需要を着実に取り込んだことで、計画を上回る売上高となりました。

◆今後の取組み

- 宿泊部門は、引き続き好調な台湾・韓国からの訪日外国人客の積極的な獲得と、現地セールス活動を継続するほか、レベニューマネジメントセンターにおいて予約管理と需要予測に基づく価格設定を行い、売上最大化と収益確保に取り組みます。
- 料飲部門は、グループガイドラインに基づく品質管理システムの構築・運用を図り食の安全・安心を確保します。

2026年度 KGI	実績	達成状況
売上高	92.5億円	

(株)JR四国ホテルズの売上高



⑥ 高松オルネのテナント売上高

KPI (1Q)	実績	達成状況
テナント売上高(全館)	14.9億円	16.4億円 110.0% ○

◆検証結果

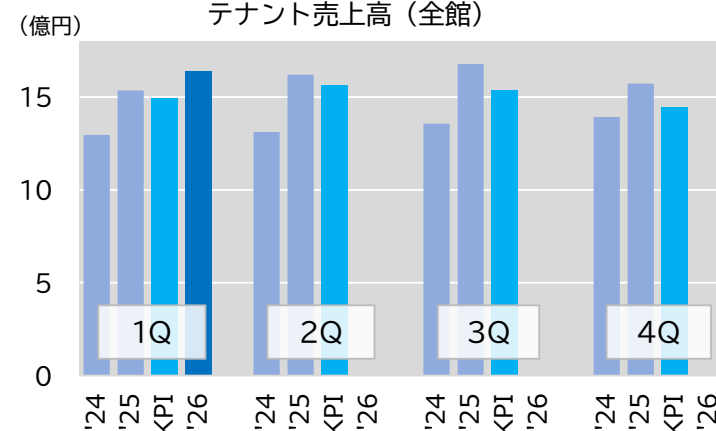
- 土日祝における国内外観光客およびあなぶきアリーナ香川イベント参加者の増加に加え、周辺ワーカーや学生、出張客など平日来街者の増加がプラス要因となり、四半期を通して堅調に推移しました。
- 当期のテナント売上高は、1,642百万円（北館1,199百万円、南館443百万円）であり、前年比107.0%（北館106.5%、南館108.2%）、計画比110.0%（北館111.2%、南館106.2%）と好調に推移しました。また、入館者数は、2,557千人となり、計画比108.4%（北館108.4%、南館108.6%）でした。昨年の瀬戸内国際芸術祭による人流増の反動が懸念されたものの、一部店舗のリニューアル・新規導入に加え、あなぶきアリーナ香川での大型イベント開催による来街者増加が寄与し、土産品・飲食を中心に売上は堅調に推移しました。

◆今後の取組み

- 好調を維持するため、館内イベントによる集客とシーズンプロモーションを連動させ、各店舗の旬な商品情報をSNSで発信し、来店および購買動機の創出につなげます。また、周辺イベント情報を確実に各店舗へ共有し、当日の歓迎ムードの演出を促すことで、施設全体としてのおもてなしの雰囲気高め、お客様の購買意欲の醸成に努めます。
- さらに、認知度向上に向けたPOP掲示や、北館から南館への回遊性向上を目的としたサイン類の整備、シーズンプロモーションにおけるスタンプラリー等のイベントを実施し、館内回遊性の強化を図ります。
- 加えて、ポイント会員の利用拡大を推進し、継続的な来館促進と購買機会の向上につなげます。

2026年度 KGI	実績	達成状況
テナント売上高(全館)	60.4億円	

テナント売上高（全館）



(4) 2026年度第1四半期の実績等

⑦ 四国キヨスク(株)の売上高

KPI (1Q)	実績	達成状況
売上高	14.0億円	15.2億円 108.6% ○

◆検証結果

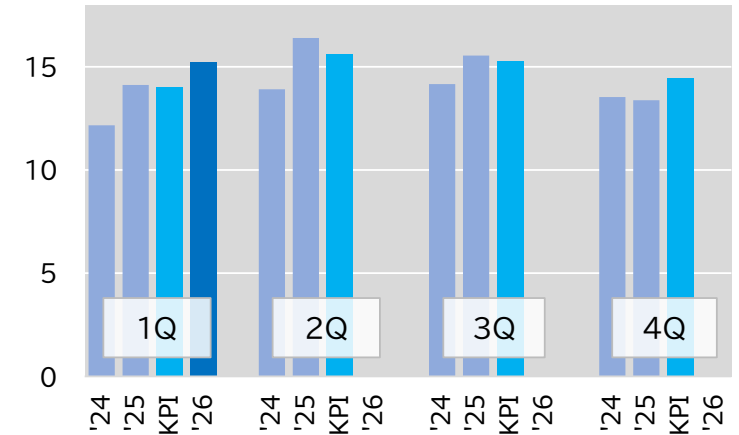
- ・ コンビニ店舗は、あなぶきアリーナ香川でのイベントなどの需要を着実に取り込んだことおよびセブンイレブンの販売促進に積極的に取り組んだことで、計画を上回りました（計画比 105.3%）。
- ・ 土産店舗は、コンビニ店舗同様に需要を着実に取り込んだことおよび地元生産者との共同開発商品の販売に努めるとともに、魅力ある売場づくりに取り組んだ結果、計画を上回りました（計画比 117.9%）。

◆今後の取組み

- ・ TSUTAYA BOOKSTOREは、物販部門においては地元作家の作品の販売、全国の有名菓子の販売などCX社および自社企画のPOPUP販売に努めました。シェアラウンジ部門においては、利用促進策としてホテル宿泊客のお客様に「割引特典」など取り組みましたが、計画を下回りました。
- ・ コンビニ店舗は、TVMと連動したセブンイレブンのキャンペーンを活用し、チャンスロス(欠品)の無いよう売上拡大を図るとともに、基本四原則の徹底など店舗運営能力の向上に努めます。
- ・ 土産店舗は、PB商品および地元素材を活かした「心惹かれる商品」の開発に努めます。
- ・ TSUTAYA BOOKSTOREは、雑貨商品の入替えを行います。シェアラウンジは、学生利用減があることから、利用促進施策のキャンペーンを企画し利用増を図ります。

2026年度 KGI	実績	達成状況
売上高	59.3億円	

(億円) 四国キヨスク(株)の売上高



⑧ 連結売上高の確保

⑨ 連結償却前経常利益

KPI (1Q)	実績	達成状況
連結売上高(累計)	171億円	178億円 104.1% ○

◆検証結果

- ・ 1Qは「四国をつなぐ“かぜ”キャンペーン」の実施や「阪神・四国WEBきっぷ」の発売を開始したほか、GW期間の指定席拡大や徳島駅への自動改札機設置、3600系ハイブリッド式ローカル車両の導入などにより利便性・快適性の向上に努めました。
- ・ あなぶきアリーナ香川での大型イベント開催などに合わせた各種施策を展開し、鉄道やホテル、飲食・物販などにおける需要の確実な取り込みに努めました。
- ・ これらの取組みにより、連結売上高は計画額を上回りKPIを達成しました。

◆今後の取組み

- ・ グループ一体で収益拡大に向けた取組みを継続し、連結売上高を確保します。

(注) 基礎建設コンサルタント(株)、四国医療器(株)、(株)津島工業の3社を2025年度期末決算から連結子会社化しております。

2026年度 KGI	実績	達成状況
連結売上高	767億円	
連結償却前経常利益	87億円	

KGIはJR四国グループ事業計画2026に基づきます。

(億円) 連結売上高(累計)

